

第54回岩手県水産審議会 会議録

日時 平成29年2月6日(月) 13:30~15:30

場所 エスポワールいわて 3階 特別ホール

挨拶

紺野
農林水産部長

本日は、委員の皆様方におかれましては御多用のところ本審議会に御出席を賜り、厚く御礼を申し上げますとともに、日頃から本県の水産振興に格別の御理解、御協力を賜り、深く御礼を申し上げます。

さて、東日本大震災津波の発災から、間もなく6年となります。

県では、本格復興をやり遂げるという強い意志を込め、平成28年を「本格復興完遂年」と位置付け、これまでに行ってきた復旧・復興に関する施策の完遂に向けて取り組んできたところです。

また、水産業につきましては、「漁業協同組合を核とした漁業、養殖業の構築」、「産地魚市場を核とした流通・加工体制の構築」、「漁港等の整備」の3本の柱を掲げ、多くの方々のお支援をいただきながら、関係団体や国、市町村とともに一丸となって、復旧・復興に鋭意取り組んできたところです。

昨年を振り返りますと、震災からの復興のさなか、8月には台風第10号が本県に上陸し、沿岸地域に甚大な被害をもたらしました。また、本県の主力魚種である秋サケは、漁獲量が9千トンを超え大不漁となり、今後も平成30年度までは震災の影響により漁獲量の少ない状態が続く見通しであるなど、多くの課題を解決していかなければならない状況です。水産業の復興と活力ある漁村の再生に向け、更なる振興策に取り組んでいく所存です。

県では、復興計画の平成29年度からの2ヶ年を、「更なる展開への連結期間」と位置付け、現在、第3期の『復興実施計画』の年度内策定に向けて、御意見を伺っております。本日は、これまでの水産業の復旧・復興状況と併せて計画の概要を御説明しまして、御意見等を頂戴したいと思います。

また、併せて「台風第10号によるさけ・ますふ化場の被害及び復旧状況」や、「平成29年度水産関係予算要求の概要」、「産地魚市場への水揚状況」などについても御報告させていただきますので、皆様からの忌憚のない御意見、御提言をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。

議事 会長及び副会長の選出について

紺野
農林水産部長

会長が決まるまでの間、大変僭越ではございますけれども、仮の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会長の選出の件でございますが、会長の選出について、立候補または推薦がございましたら、お願いいたします。

吹切 守
委員

大井委員にお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

紺野
農林水産部長

只今、会長に大井委員を、という意見がございましたけれども、皆様いかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

紺野
農林水産部長

ありがとうございます。

異議がないようですので、会長は大井委員に決定いたします。

	<p>それでは、会長の選出が終わりましたので、これで仮の議長を終わらせて頂きます。では大井会長、この後はよろしくお願ひします。</p>
大井 誠治 委員 (会長)	<p>岩手県漁業協同組合連合会の大井でございます。 前期に引き続き、会長の任にあたらせていただきますので、よろしくお願ひします。 先ほど、農林水産部長さんのご挨拶にもありましたとおり、本県の水産業は、東日本大震災津波や昨年の台風第 10 号からの復興に向けて、まい進しているところではあります。県のような施策との連携を図りながら、一歩でも二歩でも先を目指し、進んでいかなければならないものと感じております。 本日は、県から水産施策に関する報告や話題提供があるようですので、今後の施策や事業を適切に進めていただくため、委員の皆様には、質問や意見、提言など活発にご発言いただきますよう、よろしくお願ひします。 それでは、副会長の選任につきまして、立候補または推薦がございましたら、ご発言を頂きたいと思ひます。</p>
吹切 守 委員	<p>大井会長に一任したいのですが、いかがでしょうか。</p>
大井 誠治 委員 (会長)	<p>それでは、私から指名させていただきます。 副会長には、前期に続きまして、漁協女性部連絡協議会の会長でございます、盛合委員にお願いいたします。</p>
盛合 敏子 委員 (副会長)	<p>よろしくお願ひいたします。</p>

報告 東日本大震災からの水産業の復旧復興の状況について

大井 誠治 委員 (会長)	<p>それでは、報告事項に入らせていただきます。 「東日本大震災からの水産業の復旧復興の状況について」について、事務局から説明をお願いします。</p>
森山 特命課長	<p>(資料 1 を説明)</p>
阿部 漁港課長	<p>(資料 1 を説明)</p>
大井 誠治 委員 (会長)	<p>水産業の復旧復興の状況について説明が終わりました。只今の説明につきまして、ご意見やご提言がございましたら、ご発言を頂きたいと思ひます。</p>
菅野 信弘 委員	<p>養殖生産量がなかなか震災前の状況に戻らないということですが、震災前から減少傾向でしたよね。県としてはどのあたりを復興の目標として設定しているのでしょうか。</p>
森山 特命課長	<p>震災前から担い手の不足の状況が続いており、生産量が低下していると認識しております。現在の第 2 期の目標値に向けて実施しておりますが、今後も担い手の対策を進めながら、震災前の 100%に戻すのは難しいかもしれませんが、下げ止まりに向けた取組をしていきたいと考えています。</p>
菅野 信弘 委員	<p>復興支援関係で人材確保については特に出て来なかったのですが、この中にそういった計画は含まれていますか。</p>

森山 特命課長	後ほど第3期復興実施計画で説明する予定ですが、担い手関係の部分では、漁協の養殖生産の生産効率の見える化に取り組むこととしており、取り組む漁協の数を指標値として設定しております。
菅原 悦子 委員	水産加工業の事業再開率が85.9%となっていますが、これは高いという評価なのでしょうか、低いという評価なのでしょうか。復興計画の中でも水産加工業の復興の中で、女性の就労について少し条件が悪くて人材の確保が難しいというところが課題となっていたと思いますので、今の時点で見解があればお話ししたいと思っています。
五日市 水産担当技監	<p>養殖の話も加工の話もどこまで戻したいという、明確な数値は今のところ設定しておりません。ただ、基本として震災前の状態には戻したいと言うのが大きな目標です。養殖生産についても加工業者さんもそこに戻していけるようお手伝いしていきたいと思っております。</p> <p>加工場に働きに行く方が減少していることについて、以前はそれぞれの集落ごとに隣近所誘い合って、仕事に行っていた方が多いと思いますが、今は仮設住宅に入っていてなかなか近所で一緒に行けない、あるいは年を取ったのもういいやという方々もいるというように聞いていますので、今まで通りの就労ではなくて業務を機会化するなど作業内容の改善などに取組中です。</p>

報告 岩手県東日本大震災復興実施計画第3期案について

大井 誠治 委員 (会長)	<p>それでは、この辺で次に移らせていただきます。</p> <p>「岩手県東日本大震災津波復興実施計画〔第3期〕(案)」について、事務局から説明をお願いします。</p>
鎌田 復興推進課 推進協働担当 課長	(資料2を説明)
森山 特命課長	(資料2を説明)
大井 誠治 委員 (会長)	ただ今の説明について、ご意見やご提言などがございますか。
柁屋 伸夫 委員	サケの親魚の不足が続き、台風10号の関係でも32~3年に減少が見込まれる事になりますが、今実施している海産親魚の確保の補助をできるだけ長く、できれば国の復興期間32年度まで伸ばすような取組みをいただくことを現場は熱望していると思いますが、その状況を教えていただければと思います。
中井 振興担当課長	卵を確実に確保して、健康な稚魚を放流していく必要があると考えています。支援については今のところ来年は国の支援をいただけることとなっております。今後も県としても引き続きこのような取り組みが必要と考えており、国に対して事業支援ができるよう要望していきたいと考えています。
佐藤 由也 委員	資料80 ページ上段サケマス増殖事業ですが、「回帰率向上対策を実施する」とあります。また、さけ稚魚の生産数を第三期計画値4億まで戻す計画とありますが、どのような策があるのでしょうか。

中井 振興担当課長	<p>回帰率向上対策については、稚魚の飼育時の密度の関係や飼育時のエサの差で個体にどのような違いが生まれるのかを把握し、向上につなげていきたいと考えています。また、さけの生産数については、被災したふ化場が全て復旧すれば4億尾の生産は可能と考えています。</p>
角田 信子 委員	<p>台風は何度でも発生するので、今回のような被害を出さないような対策こそ必要なのではないでしょうか。</p>
中井 振興担当課長	<p>ふ化場の復旧にあたって、特に被害の大きかったところについては、かさ上げや電気機器の上階設置などを検討しています。</p>

話題提供 台風第10号によるさけ・ますふ化場の被害及び復旧状況について

大井 誠治 委員 (会長)	<p>それでは、この辺で次に移らせていただきます。 話題提供の一つ目として、「台風第10号によるさけ・ますふ化場の被害及び復旧状況」について、事務局から説明をお願いします。</p>
中井 振興担当課長	<p>(資料3を説明)</p>
大井 誠治 委員 (会長)	<p>只今の説明につきまして、ご意見やご提言がございましたら、ご発言を頂きたいと思えます。</p>
菅野 信弘 委員	<p>図3で震災前後の採卵状況について示されていますが、25年度以降の11月の減少分については既にカバーされていますか。</p>
中井 振興担当課長	<p>震災以降は、11月の採卵数が少ない傾向にあります。</p>
菅野 信弘 委員	<p>温暖化による春の海水温の上昇は、今後も懸念されてくる問題だと思います。岩手県の養殖業は海洋環境の収容力を利用した無給餌養殖ですが、昨今の海水温の上昇を考慮すると給餌養殖に切り替えることも考えたほうが良いのではないのでしょうか。</p>
中井 振興担当課長	<p>現在県ではサケに続く魚種としてサクラマスを増殖を検討し、種苗生産の研究を進めているところです。サクラマスについても下安家ふ場で昭和50年台から放流をしながら研究を進めています。近年遡上したオスとメスを使って種苗生産したところ、放流した河川近くの定置網で漁獲量が増えており、効果が見られているため、全県に広がっているところではあります。</p>
菅野 信弘 委員	<p>漁獲が安定しないと、収入も安定せず就業者も増えてこない悪循環に陥ると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。</p>
大井 誠治 委員 (会長)	<p>台風第10号の被害については、私はさけます増殖協会の代表もしておりますので、現地の写真を取って水産庁へお願いに行きました。岩手県のつくり育てる漁業の原点なのでなんとかして欲しい、とお願いをしました。東日本大震災と同じく全体に被害があったわけではなく局所的な被害なのでなかなか難しい、という話をされました。国の支援がなければ継続は難しいと、食い下がってお願いをしたところ、なんとか国1/2、県・市町村の支援のめどが付き、安堵して復旧に取り掛かっているところです。</p> <p>今年度のサケ漁獲は重茂半島の鮭ヶ崎以北ではなんとかなる数字ですが、南が全然ダメです。このくらい明確になった年ありません。原因は先ほど説明の通り水温の関係</p>

もあります。数量が落ち込んだため値段が高くなり、買うほうはかなり苦戦している状況です。サンマは60%くらい、イカは全然ダメです。おまけにサケも悪いということで、加工場は復旧していますが、原料が供給できず稼働率が悪い。そのような現状です。

話題提供 平成29年度水産関係予算要求の概要について

大井 誠治 委員 (会長)	それでは、この辺で次に移らせていただきます。 話題提供の二つ目として、「平成29年度水産関係予算要求の概要」について、事務局から説明をお願いします。
赤平 漁業調整課長	(資料4を説明)
阿部 漁港課長	(資料4を説明)
大井 誠治 委員 (会長)	「内水面漁業の振興に関する基本計画の骨子」について、説明が終わりました。 只今の説明につきまして、ご意見やご提言がございましたら、ご発言を頂きたいと思 います。
佐藤 由也 委員	内水面関係、例えばカワウ対策等ほどの事業に含まれますか。
赤平 漁業調整課長	今回の資料には含まれておりませんが、別途計上されています。
秋山 秀樹 委員	今回ご説明いただいた内容とは直接関係ありませんが、24Pに記載のある「治山災害 復旧事業費」(森林保全課)の額が大きいところ。ふ化場の被害は流木によるところ も大きいと思います。復旧と併せて山の方の整備も重要だと思しますので、農林水産部 として、山のほうの整備にも着目して欲しいと思います。
大井 誠治 委員 (会長)	いまご発言の通り山の方も大事ですので、よろしく願いいたします。 他にございますか。
盛合 敏子 委員	各漁協ではサケが多いほど大漁となますが、予算を見ると減らされている。資料3の 4Pで水温の高い海域が減少要因とされていますが、それに対して対策はやっておられ ますか。 また、ニュース等で中国漁船が取っているという話もありますが、その点についてお 聞きしたいのですが。
中井 振興担当課長	さけます増殖費の予算ですが4億ほど減っております。ひとつは、被災後ふ化場を復 旧して1年目は稚魚放流が支援対象となる、という事業がございました。それが終わっ て減っている部分と、昨年はこの予算の中に老朽化したふ化場の整備費用が入って おりました。それが昨年度の台風10号の関係により9月補正で対応しておりますので、その 分29年度に入っていないためです。 それから、稚魚放流時の水温等環境ですが環境は変えられないため、状況を把握し、 どういった時期に放流をすればよいか、今後も研究を進めていきたいと考えます。放流 後の稚魚の生残については国と連携して情報共有しているところです。
赤平 漁業調整課長	中国漁船の話ですが、サンマやさばを目的に操業していると聞いています。水産庁を 中心に関係国と協力しながら漁獲管理について協議をすすめているとのこと。

五日市 知香 委員	水産物産地強化促進事業ですが、安心・安全ということに加えて消費拡大には話題が必要と思います。各地で海産物のブランド化、地域資源の活用等進めていると思いますが、明確な成功事例がないと思います。各市町村でバラバラに取り組んでいますが、それがなかなか浸透しないので、総合プロデュースできるような仕組、戦略を考えていただけたらなと思います。
佐々木 祐子 委員	<p>今のご意見に関連して、商工会議所女性会でも沿岸の女性会と連携しながら、3.11以降取り組んできていますが、予算について、高潮対策や住宅等、ハードの面は手厚く予算が確保されているように感じます。水産とか商工業の活性化によって人が集まり、需要が高まってニーズ、ウオンツがあうものだと思いますので、箱を作ってから事業をやるということでは、予算が増えた部分が活かされるのかな、という印象を受けました。五日市委員もおっしゃったとおり、商品構成のアピールについて全国にどれだけ発信するというのを、何億円かの中の一部でもプロモーションに使うなどアウトプットが必要だと思います。</p> <p>平成30年には全国の商工会議所女性会の会議が盛岡でありますので、できるだけ沿岸の現状を見ていただいて、こんな風に活性化しているということアピールしていきたいと思います。箱物だけでなく、現場の必要なものに支援をすることで人を集めて、3.11以前の状況に戻していく事が必要なのではないかという印象を受けました。</p>
中村 企画課長	ハード事業については大分整備が進んでおります。それに伴うひとつづくりの部分も様々な事業を行い進めているところです。そこから生み出される商品の売り込みは今後の課題と捉えています。三陸に限らず素晴らしい農林水産物ありますので、売り込んでいくのが必要だと考えています。たとえば、24Pにある「いわての食材ゲートウェイ構築展開事業」など、首都圏にある岩手ゆかりの店に対して岩手の食材を売り込む事業や海外へPRしていきましょうという事業です。良いものを関係市町村、民間の皆様と連携しながら岩手の良い物を売り込んでいきたいと考えております。
早野 由紀子 委員	台風10号で岩泉町では河川が甚大な被害を受けました。河川でのイワナやヤマメにも被害を受けました。漁獲量としては少ないが遊漁等、観光資源としての側面や地元の生活の糧でもあるので、河川の復興についても予算を考えて欲しいと思います。
中井 振興担当課長	<p>河川の復興については土木の事業で対応することとなっております。水産関係では漁協さんと一緒に取組む多面的事業がありますが、それによって流木の除去など活用できるものがありますので、ご紹介させていただいているところです。</p> <p>いずれ河川も直していかなければならないと思っておりますので、地域の状況を踏まえて対応していきたいと思います。</p>
大井 誠治 委員 (会長)	東日本大震災と台風10号のダブルパンチを受けたわけですが、災害の復旧には行政と業界の連携プレーが鉄則だと思っています。今回は県と連携したために他の地区より復旧が早く進みました。この連携プレーが一番大事だと思っています。

報告事項 産地魚市場の水揚状況について

大井 誠治 委員 (会長)	<p>それでは、この辺で次に移らせていただきます。</p> <p>話題提供の三つ目として、「産地魚市場の水揚状況」について、事務局から説明をお願いします。</p>
森山 特命課長	(資料5を説明)

遠藤 譲一
委員

資料の通り、漁業従事者が年々減っています。高齢化と担い手不足が最大の課題だと思います。久慈市議会でも新規就業者の人数とその対策についてよく話題になりますが、これといった回答ができない状況です。つくり育てる漁業が非常に大事だと考えているが、大型定置には何人か若い人が来ているようですが、磯漁業が厳しい状況です。震災後は莫大な経費を投入してハードを整備したにも関わらず従事者が減っている現状についてこれでいいのかと感じています。主要魚種がサケですので、回帰率向上は大切ですが、流通まで含めて対策を考えていかないと、今後 30 年従事者は減る一方です。歯止めをかけるには、収入の確保が必要。売り先をどう確保して、販路、ブランド化、さらに自然相手ですので、うまくいかないときの補償など、そこまで考えないといけない。

漁業者の減少に歯止めをかけるために他の都道府県はどうやっているのか。市町村には水産の専門職がないので情報提供をお願いしたいと思います。加工から販売まで一体として考えなければ厳しい状況が続くのではないかと思います。立派な漁港はあるけどやる人がいないとならないよう、ゆっくりやっている場合ではないと思います。

五日市
水産担当技監

まさにそのとおりでして、私達も非常に大きな課題ととらえております。80 ページの「新たな漁村活力創出支援事業」は一つのステップになると考え取り組み始めているところです。漁船漁業も養殖業も今までのやり方を続けてきて今の状況があるところもあります。また、漁業者の方も水揚・生産した時点で終わりとしている部分があります。養殖であれば、同じ養殖施設を用いても、生産量に 10 倍の差が出ることもあり、なぜこういった結果が出るのかについて調査を開始したところです。そのような取組と併せて、できるだけ生産が向上する仕組みをつくり所得の向上にもつなげたい。また、これまで単に市場にあげていた、という方についても加工や販売について目を向けてもらい、単価を上げて収入を上げるということを、各地の取組だけでなく漁連さんとも連携して、県全体として取り組んでいきたいと協議をさせていただいているところです。

また、担い手対策についても、地域の協議会を立ち上げるなどしております。地域の協議会の中で新しい人を入れたら、その人は将来誰々の漁場を引き継ぐと行った仕組みを作ろうとしていますし、漁業担い手の支援の際にも周知して、県全体でやっていきたいと考えております。

早野 由紀子
委員

加工業を営んでおります。三陸のさけのこんぶ巻きを主力として販売しておりますが、昨年はこんぶの流通が少なく、大手に買い占められたため、入手が大変でした。また、今年はさけも値上がりし、加工業者にとっては大変な一年でした。施設は震災にも台風にも被害はなかったのですが、原料の供給が難しい状況です。そういう加工業者のこともあるので、漁師さんには頑張ってくださいと考えております。

小さい業者ではありますが、漁業に対してどのようなことができるのか、という意識もあります。どうしたら安定的に出してもらえるか、どうしたら水産業が安定していくのか加工業者としてもともに考えていきたい。生産から加工、流通までの大きな流れの中で政策を組んでいただきたいと思います。

盛合 敏子
委員

担い手の問題については 10 年前からお話しております。一番肝心なのは国、県、市町村の連携ですが、その連携が取れていないように感じます。それぞれの答弁にはいいものがあるが、実践となった時に連携が取れていない。国、県、市町村が連携し、対策に取り組んでほしい。

五日市
水産担当技監

まったくそのとおりです。がんばります。

大石 祥子
委員

感想ですが、サケがとれない、サンマが取れないとよくいいますが、その理由がよくわかりました。水産業は岩手県として大事な産業ですので、その従事者が続けていくためには所得を補償していくことが必要だと考えます。酪農も盛んな県ですが、酪農分野についても将来に希望が持てないとの理由で後継者対策に難儀している。漁業も将来に

夢がなければ息子にも自分の技術を伝えていくこともなくなって、マイナスのことだと思しますので、所得補償が大切だと思います。

国、県、市町村のタテのつながりも大事ですが、山や川、総合ブランドであったり、それぞれの育成についてなど複雑に関わり合っているの、県の中でも網目のようにヨコのつながりも大切にして、いい岩手県にしていだければと思います。

その他

大井 誠治
委員 (会長)

その他の部分でございますが、何かありますでしょうか。

秋山 秀樹
委員

魚のとれない理由は全て説明できます。岩手県で獲れる魚種は資料5にあるものが全てです。これ以外の魚種を増やすことはできないため、これらの魚種をどのように、どこに売るのが大事。無理に遠くに運ばず、近場でもさばける場所があります。仙台でも100万人、盛岡でもそれなりの人はいます。道路ネットワークができるとういところに運びやすい。どこにどう納めていくと、効率が良いのか考えていく必要があると思います。

また、再生エネルギーについて岩手県としてどういうものを考えているのかお聞かせ願いたい。

中村
企画課長

三陸復興道路が完成すれば仙台圏から海外へ販路が拡大するものと考えています。委員ご指摘の通り、最も売れるところ、所得に結びつく販路を検討していきたいと考えています。

再生可能エネルギーについては、木質バイオマスが一般家庭にも浸透してきています。最近では花巻市で発電所が本格稼働しました。ただ、やれば良いという産業でもないの、一定程度のパイがあることを踏まえながら普及させていきたいと考えております。

外館 尚紀
委員

独身の漁師が多く、県のIサポを勧めているが参加しない。どうすれば良いと思いますか。何か意見をお願いします。

早野 由紀子
委員

外に連れて行こうとすると緊張するので、船に乗せるなどのイベントをしてみてもどうですか。

外館 尚紀
委員

なかなかイベントにも来ないのです。本人は結婚を諦めてないとは言いますが。青年部として早く結婚して子どもを持って、と思うのですが、面倒がるんですね。

早野 由紀子
委員

参加者としてではなくて、スタッフとして来い、と言ってみてはどうでしょう。

菅原 悦子
委員

岩手大学の学生が知恵を出すかもしれませんので、課題解決プロジェクトに申し出ていただければと思います。

佐々木 祐子
委員

商工会議所でも青年部や女性会でプロジェクトやっていますので、あとでお手伝いできることがあれば。

大井 誠治
委員 (会長)

せっかくお話いただいたので、今後の課題として。

それでは、本日いただいたご意見やご提言については、事務局で検討のうえ、施策に反映させていくよう、よろしく申し上げます。

以上をもちまして、第54回岩手県水産審議会の議事を終了いたします。

議事進行へのご協力、誠にありがとうございました。